

2011 年 2 月 17 日

知床半島淡水魚相調査計画案

野生鮭研究所 所長 小宮山英重

調査目的：遺産地域内の河川の下流域の淡水魚相

2003 年～2010 年までの調査で知床世界自然遺産地域内の河川内で自然産卵で再生産しているサケ科魚類の生息状況の概要は把握できたと推定される。2003 年以降の調査では、それ以前の調査で把握していた魚種からさらに新たな淡水魚種を目視で記録することができた。そこで、私自身の体が動くうちに改めて生息が推定される魚種の生息状況の調査を実施したい。

実施年 2011 年～2014 年（平成 23 年～26 年）

調査回数 調査河川に車で行くことが可能な河川の場合は、基本的に 1 河川あたり 10 日間に 1～2 回。なお、大潮の時期（対象：ミミズハゼ）、各種の産卵期（対象：イトヨ類、ハゼ類、カジカ類）、シロザケの産卵期（対象：降海型ニジマス）、河川水が増水した後の時期に集中的に実施するなど対象魚種により時期は調整する。

主な調査河川名

1. ルシャ地区の調査予定河川名とその範囲

- (1) ルシャ川 河口から上流 600m までの範囲
- (2) ポンベツ川 河口から上流 200m までの範囲
- (3) テッパンベツ川 河口から上流 200m までの範囲

2. その他の地区の調査予定河川名

- 羅臼町側 ラウス川、サシルイ川、チエンベツ川、ショウジ川、ケンネベツ川、ルサ川、オシヨロッコ川、アイドマリ川、カモイウンベ川
- 斜里町側 ホロベツ川

《参考資料》2003 年以降に新たに生息が確認できた魚種と河川名

降海型ニジマス：ポンベツ川、ルシャ川、サシルイ川、ショウジ川

ウグイ類：ルシャ川

イトヨ太平洋型：ルシャ川

サクラマス（ヤマメ）：ポンベツ川、チエンベツ川